

資料タイトル：自由学園草創期に行われた劇の発表・公演

作成者：遠藤邦子、村上民

作成年代：2021年11月

資料内容：自由学園草創期(目白時代から南沢校舎移転前後、1936年まで、主に女子部関連)に行われた劇の発表・公演について、開催日・開催場所・演目など判明分をまとめた。

典拠資料：『婦人之友』、『自由学園月報』、『The Gakuen Weekly』、『学園新聞』、自由学園女子部卒業生会編『自由学園の歴史Ⅰ』（婦人之友社、1985年）

劇上演に関わる一次資料については調査中のためここには反映されていない。

『自由学園一〇〇年史』該当章：第Ⅰ部第一章第四節自由学園開校（36頁）

二次利用に際して：作成以降、調査内容が追加・修正されている場合があるため、本資料の二次利用については事前許可制とする。

「資料利用許可申請書」を記入の上、archives@jiyu.ac.jpへ提出のこと（詳細は「自由学園100年+」トップページ>資料の公開方針と利用方法 を確認）。

■自由学園草創期に行われた劇の発表・公演（修正2021.11・6）

開催日・場所	演目など	出典・備考（一次資料については調査中のため今回は含めず）
1922年2月18日 於学園ホール	本科1年が、国語（羽仁もと子指導）で習った謡曲「鉢の木」の劇を家族毎に発表。「その後学校で折にふれてするようになった『劇』の最初であった。」	『自由学園の歴史Ⅰ』58-59頁／
1922年12月2日 文芸会 於学園 ホール及び野外	「心の憧るる国」、「クリスマスカロル」、「ロビンフッド」（高等科1年）のほか音楽発表も。 那須登山から思いついた「那須火山」は岡田哲蔵案・相良さん文によるもの。「ロビンフッド」はホール前の石だたみを舞台にした演出。 4日には全校で批評会。高等科2年生は卒業の記念に文芸会を公開したいと希望。／4日に全校で文芸会の批評会。8時から11時まで。文芸委員、衣装の係り、プログラム、接待、会場の係りの報告と経験を語った。生徒のひとりが、「学校の先生方は質素で気取らないと、母が言った」と話した。／5日に羽にもと子の今日の授業、本科2年国語、高等科2年時文、本科1年懇談、予科時文。昼の食事の後B組から、卒業記念に文芸会を公開したいと相談、A組も賛成。ミスマクナメラの帰国が2月始めのため時間が無く、ミスタ羽仁は最強の（時期）尚早論者。 木曜日まで皆でよく考えることになる。／8日に学生会を開き、公開を決定。指導者ミス・マクナメラの2月初めの帰国の前ということで、講演は1月末となった。	「あたたかき日の下に 羽仁もと子」『婦人之友』1923年1月号、67-71頁／ 「人生の感激 羽仁もと子」『婦人之友』1950年2月号、14-18頁／『自由学園の歴史Ⅰ』77-78頁／

<p>1923年1月25日 於帝国ホテル演芸場 会費3円</p>	<p>卒業勉強英語劇（1回生） 於：帝国ホテル 「イエーツ 心の憧るる国 1幕」 「シェイクスピア 真夏の夜の夢 5幕6場」 指導はミス・マクナメラ。 純益1140円を学園に寄付し、食堂のテーブルと椅子が作られた。／1932年の羽仁説子の回想によると、説子はこの時高等科1年のリーダーで、警視庁へ許可願で通い、何度も願書の書き直しをすることになった。後に羽仁説子と結婚する森五郎の父（父母会のメンバー）が同行・支援してくれたという。／1950年の羽仁もと子の回想によると、ミス・マクナメラはパリの女優学校を卒業したイギリス人、旅の途中に何度か通ってくるうちに学園を好きになり、クリスマスの祝会のために「真夏の夜の夢」を生徒にさせたいと言い、よい出来栄であった。さらにそれを公開したいとの申し出に、羽仁もと子は躊躇しつつも、帝国ホテルの小ホールでと決まった。齋藤勇先生も、英語はどうかと心配したが大成功と行ってくださった、齋藤とら子夫人も見に来てくださったという。</p>	<p>〔自由学園文芸会英語劇プログラム〕（20191796001）／「自由学園の英語劇」『婦人之友』1923年3月号グラビア／「雪ふる夜の観劇 岡田哲蔵」『婦人之友』1923年3月号、24-31頁／「学園に手伝いて 岡田哲蔵」『自由学園月報』1号2頁／「親愛なる羽仁夫人 ミセス・バーネット」『婦人之友』1923年3月号、32-33頁／「劇の学生に及ぼす影響—自由学園第1回卒業生諸氏に与う—松岡久子」『婦人之友』1924年10月号、30-33頁／「応援せよ 松岡久子」『婦人之友』1928年7月号、178-179頁／「母へおくる文（1） 羽仁説子」『婦人之友』1932年6月号、261-264頁／「人生の感激 羽仁もと子」『婦人之友』1950年2月号、14-18頁／『自由学園の歴史Ⅰ』65-66、93-95頁他／</p>
<p>1923年6月25日文芸会 於学園ホール</p>	<p>各学年が1学期中に学んだ音楽や劇を発表</p>	<p>『自由学園の歴史Ⅰ』99-100頁／</p>
<p>1923年7月25日 於帝国ホテル演芸場</p>	<p>童話劇（本科1年）、英語劇（本科2年）、英語劇「シンデレラ」（本科3年）、「ハンネレの昇天」（高等科1年） 府振付：ミセス・ルビエンスキー</p>	<p>〔羽仁吉一予定表〕によれば7月14日実施と記載あり／『自由学園の歴史Ⅰ』100頁／ ※このあとの関東大震災発生が影響か、『婦人之友』に関連記事なし</p>
<p>1924年7月10日卒業式後 於学園ホールカ</p>	<p>第2回卒業式（2回生11名卒業）。震災のための社会奉仕に前年の2学期を使ったため、生徒の希望により1学期延長し、7月に行う。来賓は棟居喜九馬、沖野岩三郎、秋田雨雀、岡田哲蔵氏など。卒業式のお茶の後、卒業生（2回生）による英語劇「冬の夜がたり」（シェイクスピア）。ミス・シュレシェフスキーが劇の練習について「お骨折り下さ」ったとのこと。</p>	<p>自由学園の卒業式に列して 松岡久子」『婦人之友』1924年9月号、160-162頁（『自由学園の歴史Ⅰ』130-132頁）／「高等科第2回卒業式」『自由学園月報』1号2頁／「学園に手伝いて 岡田哲蔵」『自由学園月報』1号2頁／「7月10日卒業式」『自由学園月報』1号5頁／</p>
<p>1924年8月7日</p>	<p>文部大臣による学校劇禁止の訓示あり</p>	<p>「学校劇禁止批判 横山有策・小林澄兄・岡田哲蔵・三輪田元道・女子英学塾学生卒業生」『婦人之友』1924年10月号、7-29頁／「劇の学生に及ぼす影響—自由学園第1回卒業生諸氏に与う—松岡久子」『婦人之友』1924年10月号、30-33頁／「身辺雑記 羽仁もと子」『婦人之友』1924年10月号、202-207頁／</p>

<p>1925年7月10日 成績報告会 劇の 会 於学園ホール</p>	<p>学期末成績報告会（7月6～10日）。全校がホールに集まって各クラスの今学期の勉強の報告を聞き合った。1日目・自然科学、2日目・英語、3日目・思想と文章、4日目美術、5日目は2年生3年生がこの学期に読んだ「小公子」と「青い鳥」の劇と対話。自然科学：和田先生、大町先生。英語：ミス・ウェルス、呉、東ヶ崎、エヴァンス、ウェルス、熊本、山縣先生。思想と文章：三宅、中川、渡辺先生、美術：木村、桑重、山本先生等。</p>	<p>『自由学園月報』4号（成績報告会の記述あるが劇については記述なし）／「身辺雑記 羽仁もと子」『婦人之友』1925年8月号、177-181頁／『自由学園の歴史Ⅰ』142頁／</p>
<p>1928年6月15、 16日 於学園講 堂</p>	<p>6回生（新卒業生）による劇「ハムレット」上演、指導はミスタ羽仁の新聞記者時代の知己松居松翁氏。於：講堂 純益は消費組合設立のために用いる。在学中、早稲田大学の横山有策先生にシェイクスピアを学び、卒業製作として劇をすることが決まった。第1回生の時のマクナメラ夫人のような英語による指導者が得られず、日本語ですることになり、坪内逍遙博士を訪ね翻訳使用の許可を得た。卒業式の後2ヶ月間クラス全員で準備した。／松居松翁氏に贈るためシェイクスピア劇ハムレットに因んだ壁掛を卒業生が制作、1928年11月に行われた第6回美術展でも展示。</p>	<p>"Play is at Hand", <u>The Gakuen Weekly</u>, no.51／"The Great Dramatic Performance", <u>The Gakuen Weekly</u>, no.53／「自由学園文芸会『ハムレット』」『婦人之友』1928年8月号、10-11頁／「演劇と教育 自由学園文芸会を觀て 山下徳治・斎藤勇・秋田雨雀・石井鶴三・伊藤長七・平塚明（らいてう）」『婦人之友』1928年8月号、88-94頁／「シェイクスピア劇ハムレットに因んだ壁掛一自由学園卒業生作一」『婦人之友』1928年10月号口絵／『自由学園の歴史Ⅰ』196頁、200-206頁／</p>
<p>1930年2月12、 13日 於日比谷 公会堂（1929年 10月落成）</p>	<p>自由学園卒業生会主催、新築地劇団による「母」（ゴリキイ）を日比谷公会堂で上演。この利益は、新しい寄宿舎の建築費の一部に当てられた。／『婦人之友』2月号の会案内によると、「当局の検閲が厳しく上演禁止だったものだが、今度は許されることになる」とある。</p>	<p>「ゴリキイ『母』物語 米川正夫訳」『婦人之友』1930年1月号182-192頁 ※6月号まで連載／「ゴリキイ「母」の上演 案内」『婦人之友』1930年2月号、205頁／「母の顔 秋田雨雀・母を觀て 吉屋信子」『婦人之友』1930年4月号、10-11頁／『自由学園の歴史Ⅰ』213頁／</p>
<p>1930年6月1日</p>	<p>高等科1年生が、英語劇「青い鳥」を第8回卒業式後のお茶の会でお客様に披露。（在校生には2日前に発表）</p>	<p>「青い鳥 自由学園普通科5年試演（英語劇）」『婦人之友』1930年7月号、口絵／"Dramatic Performance of Blue Bird", <u>The Gakuen Weekly</u>, no.125</p>
<p>1931年1月18日 於日比谷公会堂</p>	<p>自由学園卒業生会主催、新築地劇団による「レ・ミゼラブル」（ユゴー）を日比谷公会堂に於いて昼夜2回公演。会員券2円。利益は南沢の寮増築の費用に当てられた。</p>	<p>「新築地劇団のレ・ミゼラブル」『婦人之友』1931年1月号、180-183頁／「今週の予定」『学園新聞』1号（1931年1月10日）／『自由学園の歴史Ⅰ』229頁／</p>
<p>1931年6月ヵ</p>	<p>普通科5年生[女子部11回生]、5年間の締めくくりとして、「レ・ミゼラブル」上演。脚本は生徒たちの共同制作、演出は奥村博史。</p>	<p>「レ・ミゼラブル 奥村博史」『婦人之友』1931年5月号、142-143頁／</p>
<p>1933年5月6日 於学園講堂</p>	<p>第11回卒業式後、18時から卒業勉強のチェホフ劇「桜の園」を上演。演出：水品春樹氏、舞台装置・衣裳・メーキャップ：伊藤熹朔・とし子氏夫妻、照明：遠山静雄氏などの指導を受ける。写真帖などの資料によって、演出・舞台衣装はすべてモスクワの芸術座で演じられたものを基にした。高等科になってから2年間に学んできた5部（英語・経済・洋裁・美術・音楽）の勉強を総合するものとして、劇上演に取り組んだ。</p>	<p>「編集室日記」『婦人之友』1933年6月号、278-280頁／「自由学園の『桜の園』を見て 東山千栄子・千田是也」『婦人之友』1933年7月号グラビア／「『桜の園』を上演するまで 26年生卒業制作」『婦人之友』1933年7月号、262-264頁／『自由学園の歴史Ⅰ』338-339頁他／※『学園新聞』当該年代にも関連記事多し</p>

<p>1934年5月6日 於学園講堂</p>	<p>第12回卒業式（45名卒業）の後、卒業勉強の劇「ドストエフスキー 罪と罰」を上 演。卒業式での羽仁もと子の話は、その劇に関連して「腹にすえかねること」（『自 由・協力・愛』収録）であった。劇の脚本はJ12回生の共同制作に楠山正雄氏が目を 通されたもの、指導は山川幸世・山本安英両氏。『婦人之友』6月号に写真と脚本が掲 載。半年後に羽仁先生から清風寮増築のためにと依頼を受け、再公演することになる。 脚本・演出の手直し、工夫を重ね、上下のクラスの人も加わってレベルの高いものに仕 上がった。12月14-16日に上演、1800人の観客、純益は1800円。</p>	<p>「腹にすえかねること 羽仁もと子」『婦人之友』1934年6月号、33 - 38頁 ／「罪と罰 12回生・楠山正雄・山川幸世・山本安英」『婦人之友』1934年 6月号、257 - 276頁／『自由学園の歴史Ⅰ』354頁他／※『学園新聞』当該年 代にも関連記事多し</p>
<p>1935年7月4日</p>	<p>子供と劇についての座談会、婦人之友社ホールで開催。『童話劇』第1号に羽仁説子が 「童話劇の使命」の名で書いたものが面白いと、春山氏が言う。自由学園小学部や女子 部の例も引かれている。「罪と罰」を公演した卒業生井澤・秦・松村も出席して、その 様子も話した。劇を上演するという課程に重大な教育的な意味があることを確認した。</p>	<p>「座談会 子供と児童劇 秋田雨雀・伊藤喜朔・伊達豊（坪内博士演劇博物 館）・佐藤瑞彦・春山住男（東京童話劇協会）・上澤謙二・羽仁説子」婦S10 年8月号p. 116 - 130</p>
<p>1936年7月10、 11日 於日比谷 公会堂</p>	<p>卒業生会主催で、新協劇団による「夜明け前」（島崎藤村原作）上演。</p>	<p>「島崎藤村原作『夜明け前』上演 [予告]自由学園卒業生会主催」『婦人之 友』1936年7月号、160頁／※『学園新聞』当該年代にも関連記事多し</p>